



## で き ご と

本年度の国際子ども図書館児童文学連続講座は平成25年11月11日と12日の2日間の日程で開催されました。今回の講座の総合テーマは、川端有子氏監修による「英米児童文学をめぐる時代と環境」でした。

川端氏によれば、「児童文学は大人が作りだすもので、時代や社会背景とは無関係に存在し得ないもの」です。したがって、そこで描かれる子ども像には、歴史・文化・地域性というような現実がしっかり反映されてきます。今回の講座では、英米児童文学を4つの視点から考察して、子どもたちの理想郷を描く作品群といった位置づけのみでは済まされない児童文学の深みを探っていきました。

(2ページ目にて、概要を紹介します。)

## 子どもの本に関する賞

芥川賞・直木賞が決まる時期になると、書店や図書館でもノミネート作品や受賞作を紹介することが多くなります。一般書の賞だけでなく子どもの本に関する賞も多くあり、毎年の発表を楽しみにしているという声も聞かれます。

一昨年創設された静岡書店大賞は、書店員や図書館員の投票によって「小説部門」「児童書新作部門」「児童書ベストセラー部門」の3部門で大賞が選出されます。

子どもに与える本を選ぶ際の、選択の候補として、このような賞を受賞した作品も検討してみたいかがでしょうか。

今号では、この1年間に発表された子どもの本に関する賞の受賞作をまとめました。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)

### ◇子ども図書研究室のテーマ展示 ただいま展示中です！

- ◆桜の本
- ◆「ニッサン童話と絵本のグランプリ」と子どもの本に関する賞
- ◆新着図書も展示中です。

### ◇イベント情報 その1◇

#### ◆グランシップ「えほんのひろば」 おはなしかいのごあんない

グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」では、下記の日程でおはなしかいを開催しています。事前申込み不要、無料です。

\*「おはなしかい」

毎週木曜日：午前10時30分と午後3時から  
第3日曜日：午前10時30分から

\*「0歳からのおはなしかい」

毎週火曜日：午前10時30分から

\*SPACによる朗読の会「おはなし劇場」

日曜日：午前10時30分から(月1回開催。  
場所と時間は変更される場合があります。)

※4月～5月22日(木)まで、木曜日午前と日曜日のおはなしかいはお休みします。

### ◇イベント情報 その2◇

#### ◆静岡県立中央図書館

##### 企画展「静岡発！昭和の幼児指導絵本

##### 『あそび』と山田卓司の情景ジオラマ展」

昭和時代、静岡に『幼児指導絵本 あそび』という絵雑誌があったことをご存知ですか？20頁足らずの雑誌ですが、後に有名になった絵本作家・画家・詩人らが執筆していました。このたび静岡大学の協力を得て、『あそび』の研究成果と、情景作家の山田卓司氏による「情景ジオラマ」を展示します。

当時の暮らしをそのまま再現したジオラマや当館職員が持ち寄った雑貨やレコードなどから、昭和の香りを感じてみませんか。

●期 間 2014年2月7日(金)～  
3月16日(日)

※3月4日(火)は休館

●時 間 9:00～17:00

●入場料 無 料

●場 所 静岡県立中央図書館

インフォメーションホール、3階展示室

●問合せ 県立中央図書館企画振興課

(静岡市駿河区谷田53-1

TEL 054-262-1246)

## 児童文学連続講座「英米児童文学をめぐる時代と環境」報告

今回の講座は、英米児童文学を社会文化的環境との関わりで考えていくものでした。

総合テーマの下で4人の講師が、歴史・社会・文化・地域性という背景をもった現実に生きる子どもたちが、どのように児童文学に描かれているかを、それぞれの視点から考察していきました。



### 講座1「イギリスの歴史物語の流れ」

(青山学院大学非常勤講師 本間裕子氏)

歴史物語は、作品が書かれた時代の考え方が如実に反映される分野です。ここでは、歴史物語の始まりとされるスティーブンソン作品(『宝島』等)からキプリング、サトクリフに至る19世紀作品を辿り、その歴史観を考えていきました。今でも支持されている作品には、歴史的背景以上に、現代に通じる人間の本質に根ざした何かがあるとのことでした。



### 講座2「児童文学が描くイギリスの風土と子ども」

(昭和女子大学非常勤講師 内藤貴子氏)

風土という言葉には、気候や地形という自然環境に加え、その土地の歴史・文化的環境も含まれています。講義では、イギリスの児童文学に描かれたその風土的特性を、個々の作品から読み込んでいきました。ルーシー・ボストンの『グリーン・ノウ物語』や現代作品『ヘヴン・アイズ』等の深い掘り下げは、一般文学作品へのアプローチ以上だと思われました。



### 講座3「児童文学とセクシャル・マイノリティ」

(川口短期大学専任講師 水間千恵氏)

LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) 児童文学と呼ばれるジャンルの歴史を、アメリカ文学を中心に通覧しました。児童文学がセクシュアル・マイノリティ(身体上の性、性自認、性的指向に関して社会的に少数派の立場

にある人々)をどのように描いてきたかが、大枠で理解できる講義でした。日本ではその翻訳が少なく、またその中でも図書館に受入されるものはさらに少ないため、LGBTを取り巻く状況が本を通して子どもたちに理解されにくいとの指摘がありました。



### 講座4「歴史とジェンダーをめぐって

バーネットの『小公子』『小公女』

マロの『家なき子』『家なき娘』の場合」

(日本女子大学教授 川端有子氏)

講義タイトルにある4作品は、日本語タイトルが対になっており、混同されがちですが、それぞれが関係なく書かれたものです。しかし同時代(19世紀後半)に書かれたことから、その時代特有の背景を持ち、興味深い関連が見られます。一方の作者マロはフランスの男性作家であり、もう一方のバーネットはイギリスの(最終的にアメリカに帰化した)女性作家です。

性別の異なるふたりの作者が生み出した少年少女の成長する姿を描いた作品から、労働問題や貧困問題を含む歴史状況や理想とする社会思想等も分かり、興味深く感じました。



英米児童文学に関する内容の深い講義を受講することができ、児童・青少年サービスに携わる図書館職員のひとりとして、非常に刺激になりました。毎年講義録が発行されますので、内容についての詳細はそちらをご覧ください。

## 所蔵資料から

### 研究書

『国際子ども図書館児童文学連続講座講義録 平成24年度』

国立国会図書館国際子ども図書館／編集・発行

2013年10月(閲覧室)

国際子ども図書館児童文学連続講座の講義録。前回の講座「イギリス児童文学の原点と展開」が掲載されている。当館では平成16年度の講義録から所蔵している。(小松)

## 子どもの本に関する賞

イギリスの伝統ある児童文学の賞に、児童書を対象としたカーネギー賞と、絵本や挿絵を対象としたケイト・グリーンウェイ賞があります。一方アメリカでは、最も優れた児童文学にはニューベリー賞が、絵本にはコールドコット賞がそれぞれ贈られます。

コールドコット賞を受賞した『Locomotive』は2013年度ニューヨークタイムズベストイラスト賞も受賞していますが、残念ながらまだ邦訳されていません。

## 所蔵資料から

絵本



『ブラック・ドッグ』

レーヴィ・ピンフォールド／作

片岡しのぶ／訳

光村教育図書

2012年9月

(ケイト・グリーンウェイ賞受賞作)

怖がらなくてよいものでも怖いと思うと怖くなる。子どもは先入観を持たないから、大人が怖がる黒犬とも仲良くできるのだ。落ち着いた色遣いで丁寧に描かれた絵によって、大人と子どもの捉え方の違いが伝わってくる。(杉田)

賞名	受賞作品 (*印は当館所蔵)
コールドコット賞	『Locomotive』(ライアン・フロッカ/作・絵 Atheneum Books for Young readers 未邦訳)
ニューベリー賞	『Flora & Ulysses』(ケイト・ティカミロ/作 K.G.キャンベル/絵 Candlewick Press 未邦訳)
ケイト・グリーンウェイ賞	*『ブラック・ドッグ』(レーヴィー・ピンフォールド/作・絵 片岡しのぶ/訳 光村教育図書)
カーネギー賞	*『Maggot Moon』(サリー・ガードナー/作 Hot Key Books 未邦訳)
小川未明文学賞大賞	*『木かげの秘密』(浅野竜/作 杉田比呂美/絵 学研教育出版)
けんぷち絵本の里大賞	*『クロコダイルとイルカ』(ドリアン助川/作 あべ弘士/絵 映画『じんじん』事務局)
講談社出版文化賞絵本賞	*『さがしています』(アーサー・ピナード/作 岡倉禎志/写真 童心社)
五山賞	該当作なし
産経児童出版文化賞大賞	*『タマゾン川 多摩川でいのちを考える』(山崎充哲/著 旬報社)
静岡書店大賞児童書新作部門	*『パンダ銭湯』(tupera tupera/さく 絵本館)
同名作ロングセラー部門	*『からすのパンやさん』シリーズ(かこさとし/作・絵 偕成社)
小学館児童出版文化賞	*『狛犬の佐助 迷子の巻』(伊藤遊/作 岡本順/画 ポプラ社) *『しごとば 東京スカイツリー』(鈴木のりたけ/作 ブロンズ新社)
坪田譲治文学賞	『世界地図の下書き』(朝井リョウ/著 集英社)
ニッサン 童話と絵本のグランプリ	*『わけありリンゴのアップルパイ』(あさいゆうこ/作 あべまれこ/絵 BL出版) *『ゆみちゃんはねそうのわるいこです』(みやざきあけ美/作・絵 BL出版)
日本絵本賞大賞	*『オオカミがとぶひ』(ミロコマチコ/著 イースト・プレス)
日本児童文学者協会賞	*『チャーシューの月』(村中李衣/作 佐藤真紀子/絵 小峰書店)
日本児童文芸家協会賞	*『世界の果ての魔女学校』(石崎洋司/作 平澤朋子/絵 講談社)
野間児童文芸賞	*『ルドルフとスノーホワイト』(斎藤洋/作 杉浦範茂/絵 講談社)
ひろすけ童話賞	*『あまやどり』(市川宣子/作 陣崎草子/絵 文研出版)
福島正実記念SF童話賞大賞	*『声蛩』(万乃華れん/作 丹地陽子/絵 岩崎書店)
福田清人賞	該当作なし
椋鳩十児童文学賞	*『山の子みや子』(石井和代/著 稲田善樹/絵 てらいんく)

## 新着資料から

知識

『ヒラメ・カレイのおもてとら  
平たい魚のウラの顔』



山下 洋／著  
恒星社厚生閣  
2013年10月

海の生き物の研究者が、最先端の研究成果を中高生に伝えるシリーズの一冊。今回は、我々にとってなじみ深いカレイとヒラメがテーマ。「左ヒラメ、右カレイ」というカレイとヒラメの見分け方が必ずしも正しくないこと、耳石を用いた魚の年齢の調べ方などを分かりやすく解説する。魚の変態や食物連鎖など、生物の知識を必要とする解説もあるが、理解を助ける写真やイラストが豊富にあるため、理科に苦手意識を持つ子どもであっても楽しんで読むことができる。【中学生から】 (青木)

知識

『図書館のトリセツ』



福本 友美子／著  
江口 絵理／著  
スギヤマ カナヨ／絵  
講談社  
2013年10月

「トリセツ」とは、「取扱説明書」の略。「本と出会う」では、図書館の使い方を親しみやすく語りかけ、「本で調べる」では、トショくんとカンコちゃんを主人公に、図書館を利用して調べ学習を進める様子を物語形式で紹介する。「ご使用の前に」「安全上のご注意」など、トリセツらしさも盛り込まれていて楽しい。

本書を読めば、図書館にでかけてみようかという気持ちになることと思う。図書館をまだ利用していない子どもに渡す手立てを考えたい。【小学校中学年から】 (鈴木)

文学

『わすれもののおつかい』



葉山 ひろみ／作  
石川 えりこ／絵  
国土社  
2013年10月

「考えごと」を食べるおばけのナンダックに取り憑かれたちいちゃんは、おつかいに行く途中で考えたことを次々とナンダックに食べられてしまい、何を買ってくるのかわからなくなってしまう。

楽しい「考えごと」を食べられてしまうのは残念だが、怖そうな犬に会った時の嫌だなという「考えごと」は、ナンダックに食べられたほうがいい。行き帰りにハラハラするできごとが起こるけれど、おつかい初心者にも楽しく読める一冊。【小学校低学年から】 (杉田)

絵本

『もじゃひげせんちょうと  
かいぞくたち』



コルネーリア・フンケ／文  
ケルスティン・マイヤー／絵  
ますが ちかこ／訳  
WAVE出版  
2013年11月

ドイツ人女性作家、コルネーリア・フンケの冒険ファンタジー。海で荒々しい海賊団につかまってしまった小さな女の子モリーは、海賊船の上で、もじゃひげ船長らに体中の骨が痛くなるほど働かされる。困ったモリーは、こっそり海に手紙を入れたびんを投げ、助けを求める。そこに現れたのは、なんとモリーのママ、女海賊ベルタの一行。ストーリーは軽快で、海賊と女の子というユーモラスな組み合わせが、子どもたちのわくわく感を盛り上げるだろう。【小学校低学年から】 (小松)